

令和5年度 学校評価 自己評価書（2学期）

1 学校の重点目標

| | |
|----------------------|----------------------------|
| ○ 開かれた学校、特色ある教育活動の推進 | ○ 学力向上（授業力向上と補充指導、家庭学習の徹底） |
| ○ 基本的な生活習慣の確立 | ○ たくましい体力・気力・忍耐力の育成 |
| ○ 礼儀正しい学校生活の徹底 | |

2 課題と改善策

（4段階評価 A・B・C・D）

| | 評価項目 | 職員 | 評価結果と改善策 |
|---|--|----|---|
| 学 力 向 上 | 1 各種学力検査等において県平均以上の結果 | A | ・ 令和5年度NRT（2/4/6年実施）では、どの学年も偏差値平均50を超え、総合の偏差値平均が52.7であった。令和5年度全国学力・学習状況調査における県平均正答率との比較では、国語+5、算数+7であった。細かい分析等を行い、指導に反映させられるように努めた。 |
| | 2 基本的な学習のしつづけの徹底 | B | ・ 「立腰」「話をきちんと聞く」態度が身に付いてきた。「はい」という返事については、今後も継続して指導していく。 |
| | 3 教科指導の充実 | B | ・ 教師の授業力向上に向けて、全職員が研究授業を行った。今後も「学力向上5つの方策」をもとに「子ども主体の授業」目指し、教科指導の充実を図るようにしていく。 |
| | 4 補充指導（にしっ子タイム）の充実 | A | ・ 補充指導（週2回各20分、月1回45分）の時間を設定した。各学年で意図的・計画的に補充指導を行い、学力の定着・向上を図っているところである。 |
| | 5 家庭学習の充実 | B | ・ 概ねどの児童も取り組むことができている。特に、「書く」力を高めるために、全学年週2回以上、内容を工夫した課題を与え、取り組ませることができた。 |
| | 6 一人一授業・チームによるプレゼンの実施 | A | ・ 2学期に、全担任が研究授業を行い、授業改善を図ることができた。また、実施前・後のプレゼンを行い、研修の充実を図ることができた。 |
| | 7 読書指導の充実 | B | ・ 11月を読書月間とし、取組を充実させることができた。個人差が見られるので、より本に親しめるような手立てを講じていく。 |
| 豊 か な 心 の 育 成 | 1 礼儀正しい学校生活の徹底（「あいさつ」「語先後礼」「返事」「言葉遣い」等） | B | ・ 「返事」については今後も指導を継続していく。「語先後礼」「あいさつ」「言葉遣い」等は概ね身に付いてきている。家庭や地域と連携しながらより育んでいきたい。 |
| | 2 いじめ・不登校、問題行動等への対応 | A | ・ アンケート等を毎月実施し、いじめの認知件数を増やすことができた。早期対応・解決に努めることができた。 |
| | 3 ボランティア活動の推進 | A | ・ 高学年のほかにも中学年も加わり、充実した取組が行えた。 |
| | 4 自主的な活動の推進（委員会活動・係活動） | A | ・ 各委員会において、責任をもって自主的に活動する姿が見られ、活動の発表等も充実していた。 |
| 健 康 な 体 づ く り | 1 命に係わる事故防止の徹底 (1) 校内での事故防止 (2) 登下校中の交通事故防止 (3) 食物アレルギー児童への対応 等 | B | ・ 学校内での怪我（保健室利用）が昨年度より1割減った。ただ、登校中の飛び出しによる車との接触事故があり、登下校中の安全指導をより徹底していく。 |
| | 2 体力の向上 (1) 一校一運動（なわとび運動）の推進 (2) 教科体育の充実 | B | ・ 2学期は教科体育や朝の運動等において、なわとび運動に取り組むことができた。また、始業前や昼休みにおいて、ジョギングや外遊びをする児童が多く見られた。 |
| | 3 う歯治療率向上と疾病治療の推進 | B | ・ う歯保有者は51名（13.9%）であった。現在の治療率は、51%である。保護者と連携を図りながら、治療を進めていけるようにする。 |
| | 4 望ましい食習慣の育成 | B | ・ 2学期は、栄養教諭を中心とした「食に関する授業」を行い、食習慣の定着を図ることができた。 |
| 開 か れ た 特 色 あ る 学 校 づ く り | 1 人権尊重の視点に立った学級経営 | A | ・ いじめアンケート等から児童や学級の実態把握を細かにを行い、児童一人一人が大切にされる学級経営に努めることができた。 |
| | 2 教室設営及び学年設営の充実 | B | ・ 児童の作品に必ず朱書きでコメントを入れる等して、充実を図った。今後も計画的に設営を充実させていく。 |
| | 3 地球規模で考え、足元から行動する環境教育の推進（資源活用） | A | ・ 4年生以上における「みどりの小道」環境日記コンテストへの取組では、昨年度に引き続き環境大臣賞（最優秀賞）を受賞し、評価していただいた。 |
| | 4 広報活動の充実と各種コンクールへの応募 | B | ・ 学校ホームページにおける各学年ページの更新を1か月に1回は更新できるようにしていく。各種コンクールの応募では多くの児童が受賞し、自信となった。 |
| | 5 整然とした学校環境づくり | B | ・ 落ち葉の清掃が大変であるが、児童のボランティア清掃等により整然とした学校環境の整備を図ることができた。 |

3 3学期に向けての取組

- 児童に対しては当該学年のまとめを知・徳・体の視点から行き、次学年へつなげられるよう指導の充実を図る。特に、学力向上を最重要とする。